

東大和市「旧日立航空機株式会社変電所」の保存等のための寄附金趣意書



東京都東大和市にある都立東大和南公園は、緑に囲まれ、週末には多くの家族連れや子どもたちが集まり、一年を通じて笑顔や笑い声にあふれる憩いの場となっています。

その公園の一角に、戦争の傷跡を残す旧日立航空機株式会社変電所が建っています。

軍需工場の変電所と米軍による攻撃

変電所は、昭和13年(1938年)に、高圧線で送られてきた電気を減圧して軍需工場内へと送る重要な施設として東大和市(当時の北多摩郡大和村)に建てられました。

昭和20年(1945年)、多摩地域の他の軍需工場と同様に、この工場でも2月と4月の計3回米軍から大きな攻撃を受けました。なかでも4月24日の攻撃では、1,800発余りの爆弾が投下され、工場は壊滅的な被害を受けたといわれています。加えて、この3回の攻撃で工場の従業員や動員された学生、周辺の住民など、111人もの尊い命が失われました。

奇跡の変電所

空襲によって工場内の建物のほとんどが破壊された中、奇跡的に生き残った変電所は、無数の弾痕を残しながら、今もなお当時の攻撃のすさまじさを伝え、戦争の恐ろしさや悲惨さ、平和の大切さを無言で訴え続けています。

心と心、平和への熱い想いを

東大和市は、この変電所を後世に残すために、平成7年(1995年)10月1日に文化財に指定しました。

しかし、老朽化が進んだこの変電所を現在の状態で保存等をするためには、多額の費用が必要となります。東大和市では、平和の大切さを後世に伝えるため、老朽化が進んだこの変電所を、平和を愛する多くの皆様とともに保存等をしてまいりたいと考えております。

つきましては、この趣旨をご理解いただき、奇跡的に生き残ったこの変電所の保存等のために、東大和市へのふるさと納税(寄附)にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年10月1日

東大和市長

尾崎保夫